

□わたしの意見

## 新マスター・プラン と

### ファッション都市

宮田 芳彦

〈神戸市企画局長〉



昭和四十年に神戸市で初めての総合基本計画を作りましたが、社会情勢の変化が余りにも激しかったため、新たに見直すことになりました。

基本的には「人間環境都市」を目指すことにし、環境都市・福祉都市づくりを考えています。しかし、これだけでは決して十分ではありません。神戸の都市のイメージ、さらには経済構造をどう変えるかという点が大へん問題になり、昨年夏頃から内部でも討論を重ね、学者、その他各方面の方々の意見もできる限りきいてみました。が、なかなかよい結論が得られず悩んでおりました。

わたくしたちは、毎年大都市で何かテーマを決めて共同調査をしています。一度各都市のイメージ調査をしたことがあります。その結果他都市の方が神戸市を「工業都市」という見方をしていることがわかりました。

わたくしたちは「工業都市」からもっと住みやすい街に変えてゆきたいと考えていた矢先、ファッション都市論がもり上ってまいりました。神戸の歴史、風土を考え、てみますとファッションの生れる都市づくりを進めるのが最も神戸にふさわしいと思います。神戸新聞社の畑主筆、神戸地下街線の森本専務に特に啓発された点が多いのですが、ニューヨークのF・I・Tまではいかないにしても、人材養成機関や、研究・実験のできる場がぜひ必要でしょうし、それにもまして、民間の方々のもり上りが最も重要だと思えます。幸い、昨秋KFAが発足しましたが、その発展を心から期待していますし、わたしたちも、マスター・プランにファッションが生れるような都市環境をつくる計画をもちこみたいと只今検討を進めています。しかし、計画に先んじて現に「ファッション都市」づくりは、どんどん進んでいるように感じられます。

神戸市でも、四十八年度から新たにファッション市民大学講座を開講したり、ファッションフェアの開催やファッション情報の提供など諸施策を進めることにしています。



●三宮の楽しいショッピング・オフィス街への出勤に

# 末積カーポートビル

近代的な  
立体駐車場  
150台OK



●普通車30分＝¥100

スピーディな駐車 親切な応待—

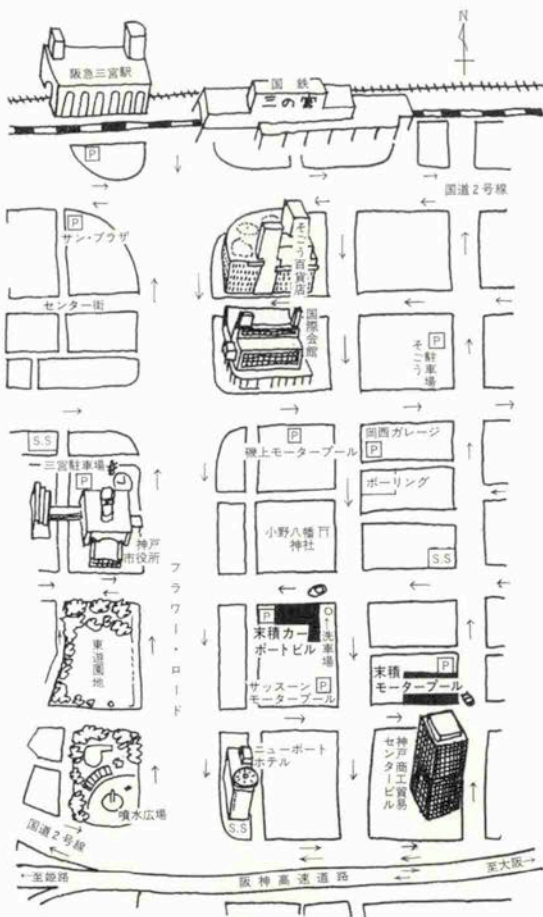
- 冷房完備・TV付の  
待ち合い室もあります。
- あさ8時—よる10時(日・祭日営業)



## 末積株式会社

神戸市葺合区磯辺通4丁目6番地ノ2

TEL 078 (221) 9 8 8 7



## 随想三題



(写真は中西美代子さん)

### 私の神戸まつり

中西 美代子

〈神戸っ子サンパチーム〉

さわやかな五月の風が吹き始めると、まもなく神戸まつりがやってくる。神戸にあたらしい現代のまつりをと、今のまつりの前身、神戸カーニバルが始まった時、恥かしさを押し参加した時が、私とまつりとの出会いだった。

それ以来、まつりの楽しさに魅せられて、殆ど毎年、メイン・イベントのパレードに参加している。私たちの神戸っ子サンパチームは、しんからまつりの好きな人たちが集まっており、まつり近

くなると、それぞれにアイディアを持ち合い、いろいろと工夫をこらす。そして一、二日前から準備にかかるが、もうすでにこの時から、私たちの内では、おまつりがはじまる。仲間たちはそれぞれに趣向をこらし、カラフルに衣裳を飾りつける。

ひどいものになると、当日「朝五時までかかったんよ。」と眼をはらしている。これらの衣裳を身に着け、メーキャップをする。我々のメンバーはナウな感覚と遊びの精神を一杯に持っている。支度がすべて済む時には、見事にヘンシンしている。何と若々しく、美しく変身するではないか。と若やいだ華やかさが、波のように押し寄せ、開放感が一杯にあふれる。

さあ番だ!!

五月の空は青く、明るく、街はおまつりを楽しむ人々で一杯にあふれている。そしてサンバのリズムが響きわたる。

私たちはパレードのしんがりを強烈なサンバのリズムにのって、フラワーロード狭しと踊りの輪を拡げ、まつりの雰囲気は最高潮に達する。私たちはパレードが終わった後も引き続き青年広場へ移り踊り続ける。ここでは見物に来ている人たちも、思わずいつの間にか抑え切れなくなって、一緒におどる。大人も子供も外国の人たちも一緒になって踊る。一緒になって楽しく踊っている間に、知らない人々との間に心の交流が生まれ、欲びが爆発する。これこそまつりだ。

おまつり。すべての拘束から解き放たれ、大胆に自分を表現出来る日。素直に自由に楽しみ、欲びをわかちあえる日。そして心から燃えることの出来る日。

昨年、パレードの途中、私たちに加わろうとした人たちを、警備していた人が冷く拒絶したのを見かけたときは、もっと粋イキにやっぴほしいものだ等、ちょっぴり不満もあったけれど、今年はフラワーロードを開放して下さるとか。そうなれば、ますますまつりは楽しくエキサイティングなものになる

だろう。広いフラワーロード一杯にリズムと、おまつりに参加している人、見に来ている人たちのカラフルでファッショナブルな装いとがとけ合って、一大ページェントがくりひろげられるだろう。そして、やがてはリオのカーニバルのように育って行けば、どんなにいいだろう。

今年にはファッションをテーマにして、いろんな方に参加して頂き（東京からも加わって下さる）バラエティに富んだものになりたいと楽しい夢をふくらませている。

## 神戸まつりと

私



藤塚 満  
ブラジル総領事館文化担当

「今年こそ神戸まつりを観る側に立ってみよう」毎年四月に入り花だよりが報じられる頃になるとそう考える。それから何年になるだろうか。

結局参加することになりいつもの通り観るのは最初の方だけでそ

のあとは夜遅くまで「神戸っ子」の人達とサンバのリズムに酔っているという結果に終ってしまおう。こんな言い方をするとまるでいやいや参加しているように聞こえるかもしれないが、実はそうではなくまつりに出るということはそれほど大変なことなのである。

特にブラジル総領事館を代表する私にとって一人で参加する場合は非常に気楽なのだが、ブラジル側として何かを出そうとした場合正直なところおっくうになる。しかし神戸まつりが始まって以来一度も不参加のないブラジルでもあり、また、有名なカーニバルの国でもあり、その上まんざら嫌いでもないということだ。遂々入ってしまった。確かに楽ではない。しかし終わった後、気持ちよい肉体的疲労感と満足感が残る。そして何か、今年はこのことから始まるような新しいフアイトが湧くから不思議だ。人間やはり年に一度位は我を忘れて馬鹿さわぎをしなければいけないのだと思う。三日間のために一年中節約し全エネルギーをカーニバルに費やすリオの人々にとって、それが大きな原動力になっているのかも知れない。神戸まつりもリオのカーニバルと比較した場合、ほど遠いものを感じるが、しかし参加者も年々増加し、また、奇抜なアイディアも見られ、まつりその

ものが市民の心に浸透しつつあることは誠に喜ばしいことである。しかしいつも感じることは出演者と見物人との間に大きな壁があることである。出演者側がそのような雰囲気を持合せないのかも知れないが、たとえば大声で声援を送るとか手拍子でその団体のリズムに合わせるのかすれば、より一層楽しいものになると思う。そういう意味から見物の人達にも自分達もおまつりに参加しているのだという気持がほしいと思う。元来日本人はまつり好きな民族なのに、どうして大都會では関心が薄れるのか不思議でならない。

日本人は働き過ぎだとよくいわれる。確かにその通りである。GNP世界第二位になった今日、もう少し心にゆとりを持ち人生を楽しむということを考えてもよい時期にきているのではないだろうか。その意味からもまつりというもの意義を改めて考え直し、法人団体ももっと積極的に参加し（ただしPRやデモンストラーションは止めよう。まつりの雰囲気がかわれる）市当局もお役所仕事的な考え方から脱し、警察ももう少し柔軟な気持で心から市民を楽しませよう心がければ、本当に楽しいまつりになると思う。

「神戸っ子」とサンバはきってまきれない関係になってしまった

四年程前ちょうど神戸まつりの時期にブラジル船が神戸に滞在していたので船員達に楽器を与え神戸っ子の皆さんとチームを組んだことがきっかけになったもの。

今年もちょうどその頃ブラジル石油公団の船が修理にやってくる予定なのでひそかに期待をしている。ブラジル船員がいなくてもフルテツさんと神戸っ子のサンバスクールはきつと例年のごとく楽しい雰囲気を作ってくれると思うがそれにブラジル人が加わればきつと素晴らしいチームになると思う。そして今年も私は見物側にはまわれないでしょう。

## 神戸まつりを

### ふり返って

松井 一枝

（72代表 イーン神戸）



五月のさわやかな空の下「花と海と太陽の祭典」神戸まつりも今年で、早第三回目を迎えることになりました。

二年前神戸まつりの誕生と共に、私達は第一回クイーン神戸と

して、皆様の前に紹介して頂き、パレード等に参加させて頂きました。その時を、また昨年のお祭りを思い起こしてみますと、人垣の凄かったこと、人々の歓声、またお祭りに参加されていた方々の真剣なそれでいて楽しさを隠しきれない表情etc、お祭りの模様が手にとるようによみがえります。

私はお祭りが大好きです。私の母の故郷では毎年十月になると秋祭りが開かれます。最近は無沙汰なのですが、私はまだ小さい頃、母に連れられてそのお祭りを見に行くのがとても楽しみでした。神社の境内からおみこしや太鼓の行列が続き、その行列が町の中を練り廻るといふ、日本独特の風情のあるお祭りです。私はもの珍しさに人垣のすきまから一生懸命見入っていたものです。トントンチキチ、トンチキチというおはやしのリズムも私の耳を楽ませてくれました。そんな昔ながらの素朴なお祭りの味は忘れられませんがね。

それと同時にリオのカーニバルにみられるようなダイナミックな情熱的なそんなお祭りも楽しいと思います。それぞれにそのお国柄を象徴していると思います。

ところで神戸まつりはその両者をうまくミックスした内容の広い、しかもより多くの人々が楽し

めるお祭りであると思います。大人も子供もおじいさんもおばあさんも一人一人が気軽に誘い合って参加する人も見物する人も一体となって膚でお祭りを感じあえる。そんなお祭りに行きたいですね。また神戸の特長の一つとして、神戸は国際港都であるということをお忘れはならないのではないのでしょうか。

神戸まつりも毎年回を重ねていくわけですが今後もその利点を大いに生かして郷土色豊かな、また、国際色豊かな他の土地には見られない神戸独自の味というものを演出して行って欲しいと思います。

一つのイメージをつくり上げるということも大切ではないでしょうか。新古和洋等のあらゆる要素を取り入れ、しかも調和のとれた町全体に連帯感の感じられるお祭りであつたらと思います。一つのイメージの中にも、毎年、新鮮なイメージを追求するという創造性豊かなわが神戸っ子ならではの持味を、大いに発揮していつて欲しいと思います。その中で神戸まつりはわが神戸の風俗に溶け込んでいき、また一つのお祭りとしての伝統が築きあげられて行くのではないのでしょうか。

神戸を愛する私達みんなの手でわがふるさとのお祭りを盛り上げてゆこうではありませんか。

□ある集いその足あと

剣道六壮会 むそうかい

玉川 義男

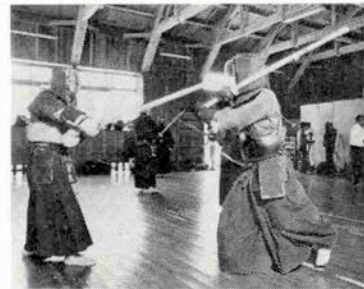
〈六壮会世話人〉

これは明治に生まれ、大正に少年期青年期を送り昭和四十八年の現在を生きて、戦すんで日も暮れようとしている人の多い中に、今なお「仮ホータイも弾丸(たま)の中」と大いに勇んでいる人達。知らない人は六十才を過ぎた老人と見るかも知れないが御本人達は壮年血氣の兵(つわもの)のつもりで、三日に一度か週に一度は竹刀を握って道場の床(ゆか)を踏み鳴らしている人々の集りである。称して剣道『六壮会』(むそうかい)。

現在は最高七十八才、若い処で六十二才。この会の第一回は昭和四十五年の秋であった。その結成のいきさつについては一くさりの話を聞いて頂きたい。

明治四十二年に創建されて以来空襲で焼失するまで神戸山の手の諏訪山のほとりに毅然として聳えていた武徳殿。ここが剣柔道の兵庫県の本山の存在であった。剣道修業の場として多数の人が毎日の稽古に竹刀の音を絶やさなかったことは、年配の人ならよくご存知のことである。その当時は高橋赴太郎、園部正利といった大先生を

はじめ名うての剣豪が揃っておられたので毎日顔を合せて稽古にはげんでいた講習生達はずいぶんときたえられて、時にフラフラになるやら、へどを吐くやら「もういかんナ……」というような目にもあった。そんな苦痛も多少の上達によつて楽しみにも変つて行つた。そんな日々が続く内に、世の中は支那事変へ、第二次大戦へと突



元氣な六壮会の練習風景

入し、日本の戦慄が続く内に遂に終戦、戦後の混乱となり、進駐軍による剣道禁止令となり、遂に剣道練習は中絶の運命となる。そうした中にも雪の下に萌え出る春の若草の様に剣道に対する愛情の火は全国的に再燃して、日本剣道連盟の発足となり今日の隆盛を見るに至った。その昔の青年達も大きな波にゆられて断続しながらも剣に対する懐(おもい)を繋(つな)いで昔を今にしようとする再び稽古を続けるようになったが、いつの間

にか老齢と見られる様にもなつていた。

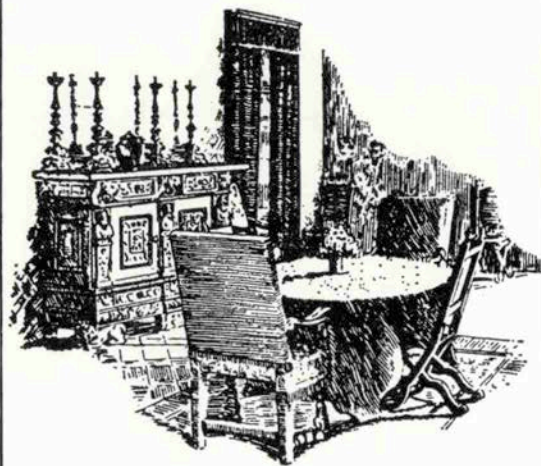
然しこれらの人々はアマチュアではあるが三十年、四十年、古くは五十年以上の剣歴の人である。それと同時に今なお現役同様に大学の事務局勤務に、自家営業に、会社の社長、公共の仕事にと専念する人達でもある。

この元氣な剣士達も時には病氣に悩むこともあり、時には不帰の客となることもある。こんなことから六十才以上の「剣友の会」を持つとうと、誰れいうとなく話が進んで結成されたのがこの会である。年に一回の集りに稽古を楽しむ、盃を酌み交わし、昔話にお互の健康を感謝し、一期一会の情を味いたいという趣向である。いづれも心の修練をとねがいつつもやはり上達したい、上段位になりたいたと努力は欠かさない欲の深い人達でもある。これあってこそ恍惚(こうこうつ)さんにもならず嬰鍊(かくしゃく)として自己の限界を試めようと努力出来るのだらう。

この会は同窓会のように減少することはなく、年々六十才になる人々をお迎えすることが出来る。皆さんののちめでたく長生(ながいき)をしして人生の残照を楽しんでください。

連絡先 神戸市生田区北長狭通三丁目  
十一の一 玉川義男  
TEL(33) 四〇〇八

欧風家具・婚礼家具



設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL 神戸(391)3737  
(代表)

東京店・東急百貨店 {日本橋店内6階 TEL 03(221)0511  
本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35  
神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)

愛の心  
こぼれ落ちた  
ひと粒のパール



北村真珠店

元町通2丁目60 TEL. 331-0072

□れんさいずいそう〈5〉

# 祭りの 思い出

楠本 憲吉

〈俳〉

え・貝原 六一

〈行動美術協会々員〉

私は少年時代を武庫郡本山村北畑（現、神戸市東灘区）で過した。

そこは、神戸東郊の六甲山麓にあり、南面に瀬戸内海を控えた、風光のきわめて恵まれた土地であった。

阪急電車神戸線の発達にともない、本山村はいわゆる阪神地帯の山手文化ゾーンとしてにわかにな目を浴びはじめ、大阪、神戸に仕事を持つ商人やハイクラスの勤め人がぞくぞくと、そこに家を建て出したのである。素朴な、土地のお百姓さんが半分、阪急電鉄が分譲した土地を買って移住してきたベッド族が半分といった割りでは本山村は構成されていたわけである。



この本山村の村社を保久良神社といった。

保久良神社は、金鳥山の直南に位し、六甲山麓の中腹、古生層の上であり、付近からは古代の祭祀の遺跡にふさわしく、弥生式土器、石器、銅戈などを出土している。この神社を村民たちは天王さんとよんでいたが、これは牛頭天王（すさのおの命）を主祭神としたためであった。神社の沿革ははっきりはしないが、鎌倉時代の建長二年に改築されたという記録は残されているのである。

古くから灘の一つ火として知られている常夜灯は、社前の突端、大阪湾を望むところであり、沖の船の夜の標識になっていたのである。ごく最近まで天王講員が輪番で点灯をつづけていたが、今

は電灯になった。私の母も講員で熱心な信者であった。私が出征中は、ずっと山頂の神社への早朝詣りを欠かさなかったようで、私は近い将来、この母の供養のため、神主の猿丸氏の協賛を得て、秋かぜの山脈おのが影いだく

の句碑を建立することになっているのである。

この金鳥山の東北の山頂には営林署の火の見やグラが立っている。ここを旗振り場というのは、通信機関のない時分、旗を振って、大阪堂島の米相場を遠方へ報道する中継所となっていたためだといわれている。この下を通過して有馬へ抜ける道をトトヤ街道というのは、恐らく、魚を有馬へ運ぶ通路となっていたからだろう。

そしてこの金鳥山の南西の山麓に、「梅は岡本、桜は生田、松のよいのは湊川」とうたわれた梅の名所、岡本の梅林があり、「撰津名所図会」にも描かれているほどであったが、大正の中ころから次第に衰えて、今は名だけをとどめることになった。

この梅林跡に、大正十二年、関東大震災をのがれて関西へ移り住んだ谷崎潤一郎が翌十三年三月新居を構えて昭和六年十月まで住んでいた。氏に「岡本にて」の随筆があるのはそこで書かれたもの、例の有名な「妻君譲渡事件」後、この家を手放した氏は、私の住んでいた北畑の家のすぐ東側の井戸若太夫というひとの借家をひきとって仮りの住まいとしていたのである。

保久良神社のお旅所は、私の住んでいた家から南へ百メートルばかり下ったところにあった。

祭りは夏祭り、五月初旬に行なわれた。

北畑、岡本、野寄、田中、森、田辺といった本山村の各部落から山車が出る。これを「だんじり」

とよんでいた。

祭りようちんで飾りたて、山車の中には鐘、太鼓のはやし方が数人入り、賑やかにはやす。

その山車を青年や男の子が力一ばい、引き押す男っほい祭りである。

宵宮、本祭りと二日あって村をあげて祭のルツボと化すわけである。

この男っほい祭りは今でも行なわれているのだろうか。

祭りゆかたを着て、山車を引かせて貰うのは土地の子に限られていた。我々、外部からの移住者は単に見物人として参加するほかになかったが、このことがいかに口惜しかったか子供心に刻まれているのである。

〜神戸ミナトは

町から町へ ヨイヤサ

港マツリの 港マツリの

灯がつづく

の歌の思い出につながる港祭りも私の青春の思い出のページを鮮やかに彩る灯の饗宴であった。

神戸坂がち 港まち

窓にタワ一の 灯が見えて

甘いゲランと 潮騒と

そしてあなたの厚い胸

これは私が目下試作中の「神戸」という歌の1節である。

恥かしながら披露させていただきます。

□れんさい随想〈5〉

# ブラジル

## 無宿

津高 和一 〈画家・大阪芸術大学教授〉

この一九五九年のビエンナーレでは、僕の作品はブラジル側及び他国の批評家等から好意的な言葉や、記事にも接した。ブラジルの近代美術館が作品（一五〇号）を買上げてくれたし、バイーアの新聞社長オドリコ・タバールス氏も買ってくれ



たりした。また、日系二世のマベ・マナブ氏が国内大賞を獲得した。

僕は出国のときから、この機会に南米諸国を歩くことを考えていた。それには、先ず自分の作品と共に行動することは有意義だと思っていたからである。それは言葉の代用にもなり、また苦手な説明も省略することができたからである。ペルーのコミッシヨナーからもペルーで個展を開く意志があれば、国立のIACの展示場で特別に会期を作成してもよい、ということ提案してくれたりした。僕はその言葉にあまえて個展を開催することにした。

そのためにホテルではせまくて作品制作のアトリエを借りることにした。ホテルからそう遠くない場所で石だたみの坂を下りて行く下街だった。窓を開けると黒人の子供たちが走り廻っていた。いたって閑静な街路だった。さしずめ二十点ほどの作品を目標に日夜ホテルとの往復が始まった。その頃、日系人たちの間では、マベ・マナブ氏の受賞ということは、即日系人たちの文化水準のパロメーターの現実でもあった。祝賀会が盛大に催されたりした。

芸術分野以外では、日系人たちは目覚ましい進出ぶりを示していたが、また芸術文化の穴を埋めてくれたことにもなり、これは大変な感動となって日系人たちは共感しあったものである。

ビエンナーレ開催の時は日本とは正反対で、ブラジルでは冬から春へ向う絶好の季節だった。人種の偏見のないこの国では、白、黒、黄色のとどりの人種もさることながら、多様な混血が活気に満ちた生活をしていた。それでも黒人たちは

全体の%としては低所得者が多く、肉体労働者が大半だった。この頃、翌年の二月のカーニバルがもう夜毎に始動していた。ということは起伏の多いサンパウロの街区の暗い街灯の下を何組かのグループが、空缶とか、小さなドラムをたたきながら通り過ぎて行くのを見たからである。

これは、カーニバルのための衣装とか、費用集めの募金ということであった。先頭が募金用の空缶を持ち、たいてい五、六人の小グループだった。ホテルの窓下を通り過ぎて行くこのもの悲しい私語するようなサンバのリズムを聞く度に、いつか見た『黒いオルフェ』というカーニバルを主題にした映画のことを思い出した。何カ月もの間、このような風景を眺める度に募金缶に金を入れる者を見たことがなかった。

昼間の労働が終ると彼等はあきもしないでこの単調な行為をくり返していたのである。たぶんこのハブニングは、募金などは最初から期待などしていないようでもあった。深夜、遠く近く何組かがたたく、鈍い小声の金属音のサンバのリズムが、彼等の血が、そうしないではおれなかったのかもしれないのであろう、とおもったりした。彼等の頭や、体の中ではすでにあのカーニバルの自由自在な奔流が想定されていたにちがいない。僕はベルーの個展で約一カ月ほどサンパウロを不在にした。また、アルゼンチンのブエノス・アイレスにも引き続いて一カ月ほど個展のために留守にした。そしてまた、サンパウロとリオで個展をやった。まるで巡業のようなものである。僕のビエンナーレの作品を買ってくれたバイーアのシャツブ

リアン系の新聞社の社長オドリコ・タバレス氏からマベ氏との二人展の招待を受けたのはその後だった。丁度出発の日がカーニバルの初日だった。リオの街々はケン・ランとして光に輝き、群衆は折重なる波のようにざわめいていた。真夏の潮風が汗ばむ肌から体臭をムンムン、発散させるのである。大使館の領事W氏の奥さんが自分の着物を借すからぜひ仮装して踊れ、としきりに誘ってくれたが、どうしてもやる気がなかった。先年、三島由起夫氏がその着物を借りて女装で踊ったから僕にもやれというのである。あの阿波踊りのスケールを大きくしたようなカーニバルの集団は大通りでは絢爛と展開した。一年がかりの総仕上げなのである。趣向を凝らした様々な仮装の群が統々と後を絶たないのである。外国からの見物客たちは高い棧敷の上でこの風景に息を呑んだ。

僕たちは翌日バイーアに向けて出発した。プロペラ機で約八時間の行程だった。ポルトガルが最初に首都にしたこの地もまたリオとちがった素晴らしいカーニバルだった。地方の都市の方が人間と密着しているとも言えた。このカーニバルの期間、この国の私生児出生率は急速に上昇するというのが実状のようだった。オテル・バイーアに止宿した僕とマベは、昼間からこの群衆に巻き込まれた。男女どちらか解らない全身仮装の連中から抱きつかれたりした。フッチボール(サッカー)にしろ、カーニバルにしてもこの国の人々は全身で体当りをした。湧きあがり、燃える情熱の発散がサンバの単調なリズムに乗るのである。連日、朝になるまで踊りは続いた。極度の肉体の酷使は多数の死者を出すほどだった。

□神戸公演の「新人会」インタビュー

★作・津上 忠／演出・八田満穂

# 「早春の賦」

## 神戸公演を終えて

八田 満穂

長山 藍子

(きき手・編集部)

★大盛況だった「早春の賦」

——今まで神戸に来られたことは。

八田 新人会も今年で二十年位になるのですが、神戸にも大分きています。だけど、この前のときは田中千禾夫作演出の「さすらい」のときだから、もう八年前になりますか。

長山 あのとときは私もきました。その他には劇団の仕事できたというのはいですね。

——今度の「早春の賦」につきまして何かお話し下さい

八田 割と評判はよかったようですけれどね。

長山 昨年の五月の東京が初演だったので、そのときは連日、立見席までお客さんがいっぱい、大盛況だったのです。それで、東京労演賞をもらったのです。

八田 僕らも、正直いって、こんなに入るとは思わなかったですよ。結局、それは、これが政治的な問題を取りあげたプロバガンダというより、困難な状況のなかで一

人の男が一人の女を精いっぱい愛し続けたという、そういう一人の人物の真摯な生き方を訴えたからでしょう。今の情勢での、大衆の不安な気持ちというか、動揺というか、そのようなものがあって、そこで、この芝居が共感を受けたのじゃないでしょうか。

長山 私は小林多喜二の恋人役の加代の役なんですけれど、むずかしくってしょうがないのですね(笑)。

八田 この加代という女性には、酌婦をしていたのですが、そんな不幸な境遇から多喜二が救い出し、色々勉強をさせたのですね。そんな多喜二の誠実な面を描いてみたかったわけです。お客さんがこれを見て、さわやかな重さを感じてくれるなら成功したと思います。神戸ではどうとられるか、興味がありますね。

長山 神戸の前に大阪で公演をやったのですが、大阪と神戸とでは質の違いといったらいいのかしら、お客さんが違ってますね。

八田 随分と氣質が違っているのですね。

長山 近いのにねえ。

八田 僕らは神戸の方がやりやすいですね。すなおに受けとってくれて厳しい批判もしてくれそうです。

長山 大阪は昔からああなのかしら。違うのでしょうか。最近、変わってきているのですね。



長山 藍子さん

★「神戸はきれいなまちだ」

——というところで、神戸についてのご感想を……。

八田 神戸のまちについては、いつまでもきれいでですね。どこといわれると困っちゃうわけだけど、何となくきれいでですね。ただ、地下街なんかできて便利になったのだからうけど、どここのまちも同じようになってしまっているのは残念ですね。

長山 でも、同じ地下街でも風情の違いがありますね。大阪の地下街と神戸の地下街とはね。店のつくりや歩いていけるひとが違うのじゃないかしら。神戸には、山があつて、海があつて、そこにまちがあるっていうのがとってもいいですねえ。

——長山さん御自身について少しおきかせ下さい。

長山 生まれは蒙古で、育ったのは東京。高校卒業のときは静岡の三島にいました。テレビによくでていて、それで知られちゃっているみたいなのですが、本当はお芝居なのです。残念なのですが(笑)。芝居でよく地方を回っているのですよ。「早春の賦」の前の「若い座標」という創作劇では三年位かけて旅をしました。でも、そのときには京阪神だけめっちゃつた(笑)。とってもきたかったのですが……。

八田 旅つてのは面白いですね。その土地その土地の色々なひとにあえるし。

長山 色々なものが食べられるし(笑)。昨日も、ガイドブックをみて、さっそく神戸肉を食べに行つたのですよ(笑)。また、地方へ行つたりすると、私のおやじを知っていたラジオ関西の青木社長さんなんかによくっりとお会つたりもして。

★誰にでも分る芝居を

——十月には竹久夢二をとりあげられるそうですが。

八田 うちの場合は、現代に生きる日本人の原点をさぐ



八田 満穂氏

ろうということ、文学者などでその時代を生きたひとをとりあげているのです。だから、小林多喜二も、日本の文学者の系譜をずっと追いかけるということをやっているのです。でも、多喜二のようによく知られたひとの場合ならいいのですが、そうでないひとの場合だと興行的にいつて仲々むずかしいですね。生きることの目安を求めていても、それがみつからないということが若いひとに多いのですが、これからは、そういうつたひとの心に喰い込むような芝居をやりたいですね。

また、今までは新劇という翻訳劇みたいなところがあったのですが、こちらで日本人の芝居をやらなければということがどうしてもあります。それから、大衆的な要素をもっととり上げて行かなくちゃならないと思います。むずかしいことをむずかしく説明するのじゃなくて、気持ちで、情感でつながって行く部分をもっと大切にしなればと思うのですよ。誰がみても分つてくれ、どこでも一緒に考えてくれる芝居をつくらなければと思いますね。

長山 そういうことにつけると思っています。

——ありがとうございます。御健闘を祈ります。

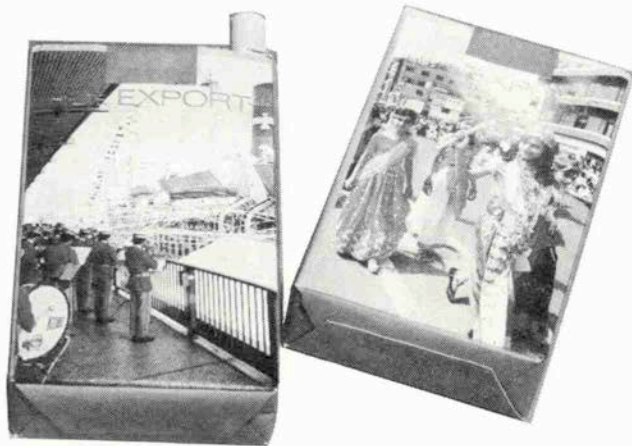
(於とんかつ武蔵)

なお、「早春の賦」神戸公演は三月十三日〜十六日の間、神戸国際会館にて行なわれました。

# 異国情緒と郷愁の港街

観光たばこ

# 神戸



キングサイズ フィルターつき 《ハイライト エクスポート》  
20本入 120円

あなたの喫煙マナーで美しい街づくり

日本専売公社

潜り戸を通して  
“花,,のおふくろさんの味を



和風季節料理

花

さんプラザ地階 TEL 331-0087

営業時間 AM11:00~PM9:00

ドイツ<sup>かたき</sup>気質です  
ユーハイム<sup>かたき</sup>気質です

“自然”に逆らわず  
“純正”であることは  
非常にむずかしいことなのです

〈純正材料に徹して50年〉



ドイツ菓子

Fachrein's

ユーハイム

本社 三宮生田神社前 TEL (331)1694  
三宮店 三宮大丸前市電筋 TEL (331)2101  
さんちか店 三宮地下街スイーツタウン内 TEL (391)3539  
貿易センタービル店 三宮貿易センタービル地下1階 TEL (251)0139